

2017年2月21日

## 経済レポート

## 緩やかな増加が続く中部圏のインバウンド消費

～ ゴールデンルートの通過点から、旅の起終点に ～

調査部 副主任研究員 杉本宗之

2016年10-12月期に中部圏を訪問した外国人数は前年比+3.0%の80.7万人、中部圏での消費額(インバウンド消費額)は同+16.3%の465.3億円、訪日外国人一人あたり消費額は同+12.9%の5.8万円と推計できる。

また、2016年に中部圏を訪問した外国人数は前年比+23.3%の363.0万人、中部圏での消費額(インバウンド消費額)は同+16.5%の2,045.4億円、訪日外国人一人あたり消費額は同-5.5%の5.6万円と推計できる。

中部圏を訪れる訪日外国人数は、増加基調で推移している。外国人の延べ宿泊者でみても増加基調であり、延べ宿泊者数に占める外国人の割合は上昇傾向にある。

足元では、観光・レジャー目的で中部圏を訪れる訪日外国人の割合が高まっており、従来はビジネス客が多い傾向にあった愛知県においても、全国並の比率にまで上昇している。

2017年の中部の訪日外国人数の伸び率は前年比+11.6%に鈍化し、405万人が訪れると見込まれる。また、中部のインバウンド消費額は、消費単価が前年実績(5.6万円)と同程度と想定すると、訪日外国人数と同じ伸びになり、2,269億円に増加する。

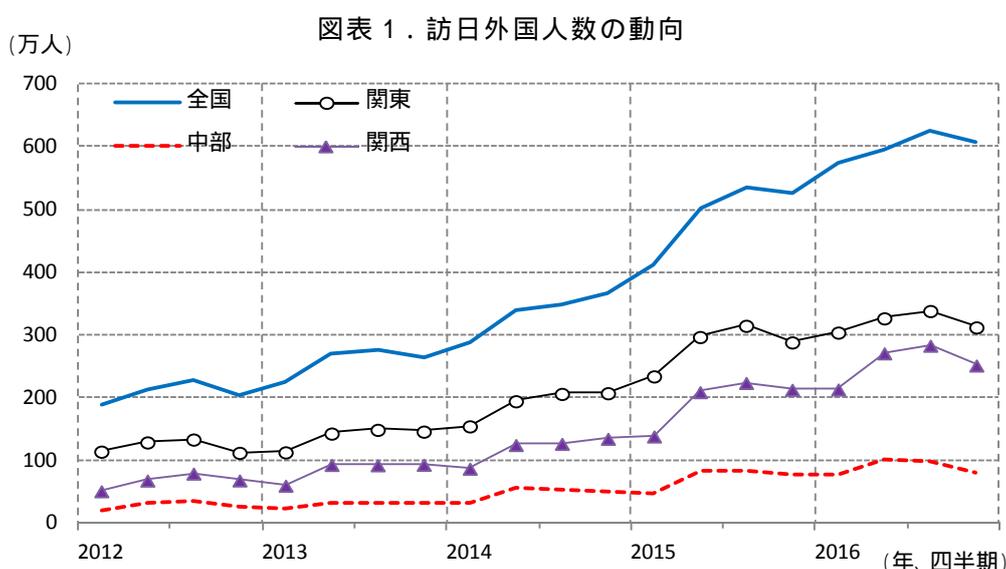
## 1. 2016年10-12月期の中部圏のインバウンド消費（四半期の動き）

政府統計<sup>1</sup>によると、2016年10-12月期の日本全国の訪日外国人数は同+15.5%の606.2万人、インバウンド消費額は同+1.3%の8,922億円、一人あたり消費額は同-12.2%の14.7万円となった。訪日外国人数は高い伸びが続いているものの、インバウンド消費額の伸びは鈍化し、ほぼ横ばいとなった。

このような中、中部圏を訪れた訪日外国人は増加を続けており、インバウンド消費は堅調に推移している。本稿では、最近の中部圏のインバウンド消費について、当社（三菱UFJリサーチ&コンサルティング〔以下MURC〕）推計において地域単位にブレイクダウンした推計値<sup>2</sup>を元に概観する。

## (1) 訪日外国人数の動向

2016年10-12月期に中部圏を訪れた外国人の数は増加基調で推移しているが、前年同期と比べた伸び率は+3.0%と前7~9月期に比べて大幅に縮小し、全国や関西に比べても低い伸びとなった。もっとも、首都圏と関西圏を結ぶいわゆるゴールデンルートの中継点に位置する中部圏は、中継地点として訪日旅行者の立ち寄りが見られ、訪日外国人数の増加に伴って集客を増やしている。また、中部国際空港を利用する外国人旅客も2015年以降は増加基調を強め、中部国際空港から入国・周遊した後、再び中部国際空港へ戻って出国するといった旅行形態も浸透しつつあることがうかがえる（図表3）。



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

<sup>1</sup> 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」

<sup>2</sup> 地域毎の数字は、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの推計値。推計方法については、藤田・塚田・杉本(2015)の補論を参照。

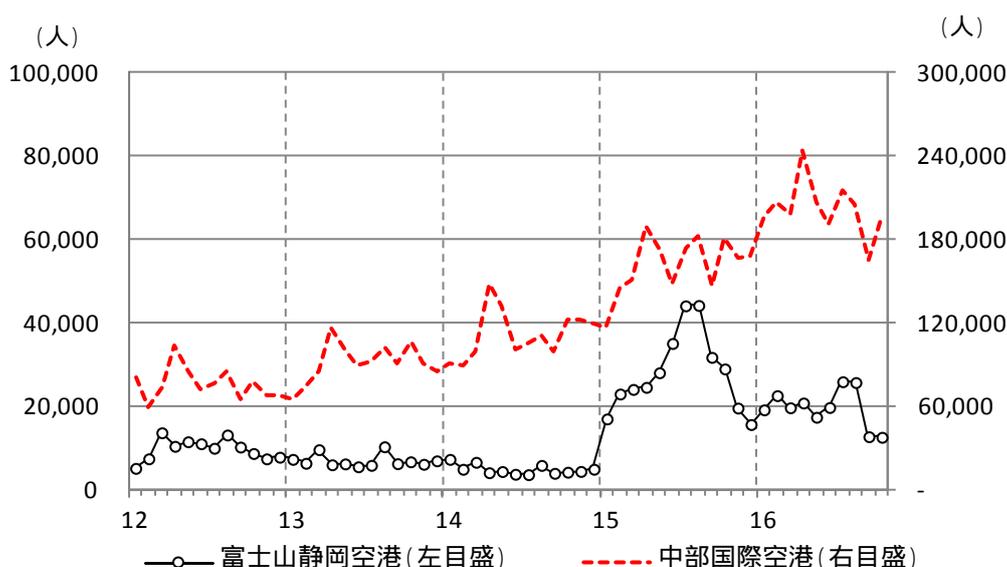
2016年10-12月期に中部圏を訪問した外国人数は80.7万人と推計される。これを県別に見ると、愛知県が前年比+1.4%の49.4万人、岐阜県が同-4.6%の16.5万人、三重県が同+57.7%の4.8万人、静岡県が同-8.8%の26.9万人、福井県が同+23.4%の1.0万人となった。愛知県の伸びは縮小してほぼ横ばいとなった。また、これまで高い伸びを続けてきた岐阜県、静岡県はいずれも減少となった。

図表2. 訪日外国人数の動向(地区・県別)

(単位)	2015年		2016年							
	10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期	
	実数 (万人)	前年比 (%)								
愛知県	48.7	50.6	51.9	57.6	64.5	17.5	62.5	8.6	49.4	1.4
岐阜県	17.3	85.9	14.9	142.2	23.2	36.4	13.8	44.0	16.5	-4.6
三重県	3.1	17.8	3.8	93.2	5.4	132.0	4.0	30.7	4.8	57.7
東海3県		56.1		72.0		25.4		14.4		2.4
静岡県	29.5	83.1	29.6	75.1	35.2	30.0	38.6	18.4	26.9	-8.8
福井県	0.8	-21.5	1.2	119.5	1.0	53.9	1.1	90.2	1.0	23.4
中部	78.3	50.5	78.9	64.5	103.2	23.3	100.2	18.7	80.7	3.0
富山県	7.3	126.8	1.8	16.4	15.2	6.7	4.2	-9.7	6.0	-16.6
石川県	13.1	151.6	8.4	95.4	19.0	50.6	9.8	29.0	11.1	-15.4
長野県	19.0	126.0	18.2	6.5	21.0	15.0	11.0	14.9	17.6	-7.5
滋賀県	4.2	57.0	3.0	19.9	4.1	38.1	3.8	18.9	3.9	-8.3
昇龍道9県		70.3		50.3		23.3		17.9		-2.1
関東	289.7	38.7	305.3	29.6	328.0	10.0	339.7	7.4	313.6	8.3
関西	214.3	57.3	214.8	53.5	272.3	29.4	284.5	26.3	252.9	18.0
全国	525.0	42.8	575.3	39.3	596.1	19.0	626.3	17.1	606.2	15.5

(注)東海3県、昇龍道9県の前年比は各県の延べ人数の単純合計値をもとに算出。

図表3. 中部圏の主要空港における出入国外国人数



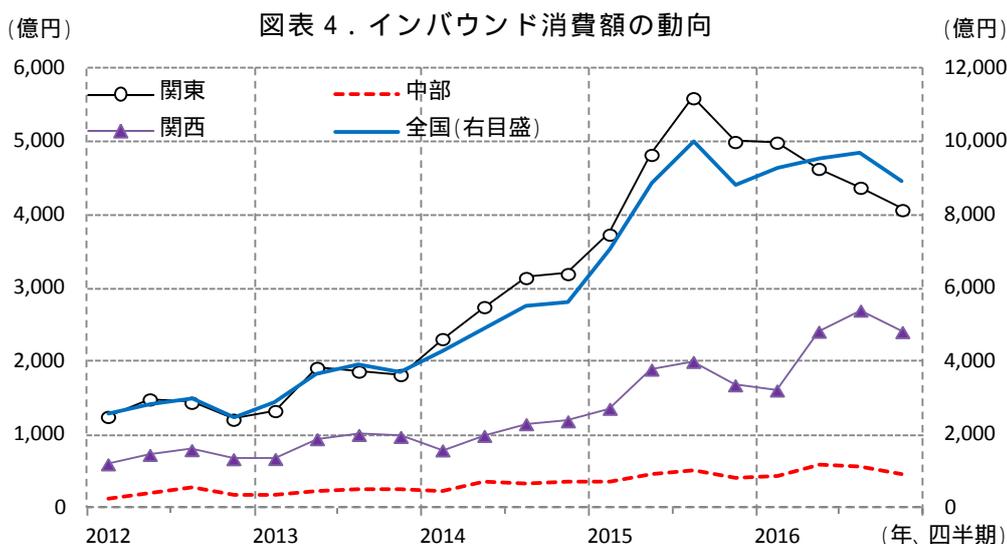
(出所)法務省「出入国管理統計」

## (2) インバウンド消費額の動向

2016年10-12月期の全国のインバウンド消費額の伸び率は前年比で+1.3%と、19四半期ぶりに減少となった7-9月期から再び増加に転じたが、増加幅は小幅にとどまった。一方、同時期中部圏のインバウンド消費額は同+16.3%と二桁の伸びを続けている。地域別では、例えば関東が同-18.6%と大幅に減少しており、7-9月期に引き続き中部圏とは対照的な動きとなっている。

関東の伸び率がマイナスとなった理由としては、16年4月に中国の輸入関税である行郵税が引き上げられ、これまでインバウンド消費の高い伸びの牽引役となっていた中国人観光客による「爆買い」が一服したことが指摘されている。中部圏においても百貨店やアウトレットモールなどでは中国人観光客による「爆買い一服」の影響は少なからずあったと考えられるが(図表4)もともと関東(東京)や関西(大阪)ほど中国人観光客による「爆買い」が行われていなかったことから、その影響は限定的であると考えられる。中部圏においては、訪日外国人の増加に伴ってインバウンド消費額全体は堅調に増加した模様である。

2016年10-12月期中部圏を訪問した外国人によるインバウンド消費額を県別に見ると、愛知県が前年比+24.3%の304.2億円、岐阜県が同-5.8%の36.7億円、三重県が同+138.0%の23.2億円、静岡県が同-3.6%の98.2億円、福井県が同-36.6%の3.1億円と推計される。

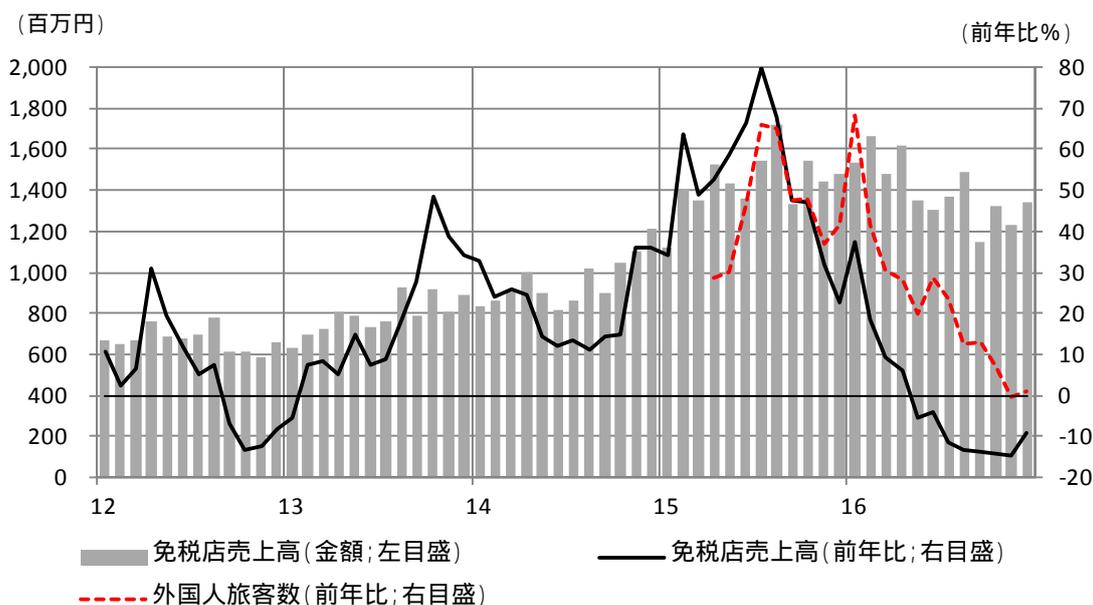


(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表 5 . インバウンド消費額の動向 (地区・県別)

(単位)	2015年		2016年							
	10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期	
	実数 (億円)	前年比 (%)								
愛知県	244.7	0.7	261.8	7.1	360.9	15.5	371.5	26.4	304.2	24.3
岐阜県	39.0	81.5	45.6	81.1	70.4	29.2	45.0	16.4	36.7	-5.8
三重県	9.7	128.1	8.7	-54.5	23.6	178.7	15.2	-5.4	23.2	138.0
東海3県	293.4	9.2	316.1	9.4	454.9	21.2	431.7	23.8	364.1	24.1
静岡県	101.9	9.2	103.9	45.1	127.7	45.3	121.1	-19.8	98.2	-3.6
福井県	4.9	69.1	5.8	247.1	7.2	51.3	11.7	194.2	3.1	-36.6
中部	400.1	9.7	425.8	17.6	589.8	26.0	564.5	12.1	465.3	16.3
富山県	13.3	-50.1	10.4	-49.7	25.3	-6.2	16.4	53.6	11.3	-14.9
石川県	35.5	267.6	21.1	10.6	59.6	94.0	41.2	106.1	39.2	10.5
長野県	70.2	95.5	215.9	32.4	59.4	-29.5	31.0	31.6	58.0	-17.3
滋賀県	9.1	14.8	9.3	-61.2	9.1	64.6	6.2	-24.0	14.1	54.2
昇龍道9県	528.2	18.7	682.6	15.9	743.2	20.8	659.3	16.5	588.0	11.3
関東	5,004.1	56.3	4,994.7	33.6	4,637.0	-4.0	4,378.9	-21.8	4,074.7	-18.6
関西	1,684.4	41.2	1,613.4	18.3	2,415.5	27.2	2,703.6	34.9	2,410.5	43.1
全国	8,804.0	57.1	9,304.8	31.7	9,533.6	7.2	9,715.8	-2.9	8,921.6	1.3

図表 6 . 中部国際空港における免税店売上高



(注) 2014年3月以前の国際線旅客数の内訳(外国人)は非公表  
 (出所) 中部国際空港(株)「中部国際空港実績一覧」

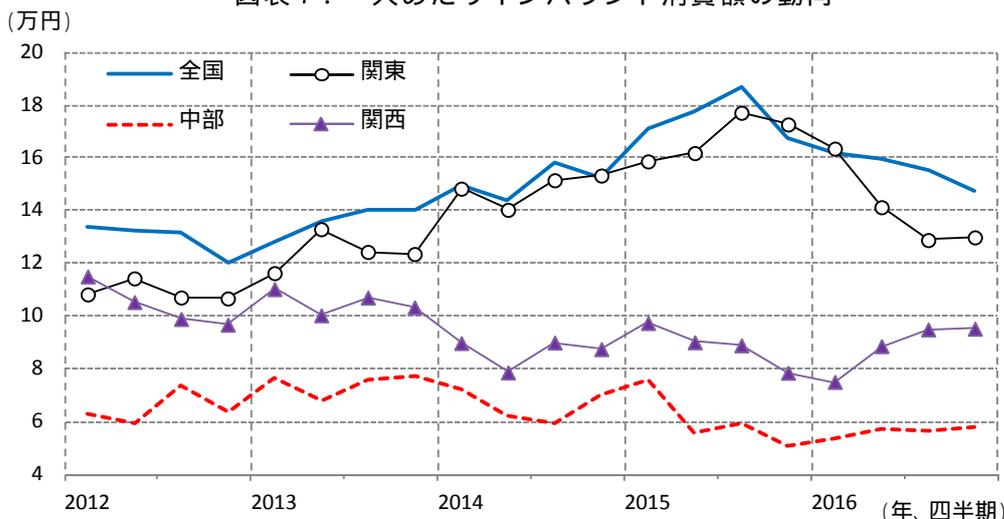
### (3) 一人あたりインバウンド消費額の動向

インバウンド消費額を訪日外国人数で割った一人あたりインバウンド消費額(消費単価)<sup>3</sup>は、全国、関東等では減少基調で推移している中、中部圏は2四半期ぶりに増加し、均してみると横ばい圏で推移している。

<sup>3</sup> パッケージツアーに含まれる国内収入分を加味したMURCの推計値であり、観光庁「外国人消費動向調査」の消費単価とは異なる。

2016年10-12月期に中部圏を訪問した外国人の消費単価を県別に見ると、愛知県が前年比+22.6%の6.2万円、岐阜県が同-1.3%の2.2万円、三重県が同+50.9%の4.8万円、静岡県が同+5.7%の3.7万円、福井県が同-48.6%の3.1万円と推計される。県別の消費単価はサンプル要因によって大きくぶれる可能性があり、特にサンプル数が少ない県（三重県、福井県など）の数字を見る際には留意が必要である。中部圏において最も訪日外国人の数が多い愛知県では、2015年の第3四半期から消費単価の下落が続いていたが、16年の第3四半期から増加に転じ、足元では持ち直しの動きがみられる。

図表7. 一人あたりインバウンド消費額の動向



(注)インバウンド消費額を訪日外国人数で割ることによって求めているため、公表値と異なる。  
 (出所)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。

図表8. 一人あたりインバウンド消費額の動向(地区・県別)

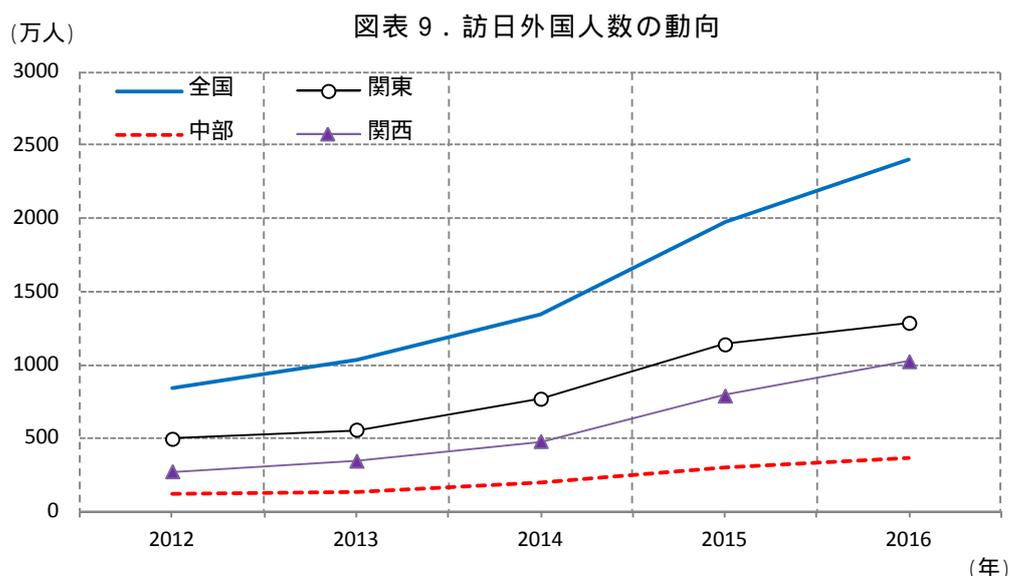
(単位)	2015年		2016年							
	10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期	
	実数 (万円)	前年比 (%)								
愛知県	5.0	-33.1	5.0	-32.0	5.6	-1.7	5.9	16.3	6.2	22.6
岐阜県	2.3	-2.3	3.1	-25.2	3.0	-5.3	3.3	-19.1	2.2	-1.3
三重県	3.2	93.6	2.3	-76.4	4.4	20.1	3.8	-27.6	4.8	50.9
東海3県		-30.1		-36.4		-3.4		8.2		21.2
静岡県	3.5	-40.4	3.5	-17.1	3.6	11.8	3.1	-32.3	3.7	5.7
福井県	6.1	115.6	4.8	58.1	7.2	-1.7	10.2	54.6	3.1	-48.6
中部	5.1	-27.1	5.4	-28.5	5.7	2.2	5.6	-5.6	5.8	12.9
富山県	1.8	-78.0	5.8	-56.8	1.7	-12.0	4.0	70.1	1.9	2.0
石川県	2.7	46.1	2.5	-43.4	3.1	28.8	4.2	59.9	3.5	30.7
長野県	3.7	-13.5	11.9	24.3	2.8	-38.7	2.8	14.5	3.3	-10.6
滋賀県	2.2	-26.9	3.1	-67.6	2.2	19.2	1.6	-36.0	3.7	68.2
昇龍道9県		-30.3		-22.9		-2.1		-1.2		13.8
関東	17.3	12.6	16.4	3.1	14.1	-12.7	12.9	-27.2	13.0	-24.8
関西	7.9	-10.2	7.5	-22.9	8.9	-1.6	9.5	6.8	9.5	21.2
全国	16.8	10.0	16.2	-5.4	16.0	-9.9	15.5	-17.1	14.7	-12.2

(注)東海3県、昇龍道9県の前年比はインバウンド消費額を当該地域内の各県の延べ人数の単純合計値で割った値をもとに算出。

## 2. 2016年の中部圏のインバウンド消費（暦年の動き）

## (1) 訪日外国人数の動向

2016年に中部圏を訪れた訪日外国人数は363.0万人で、前年比伸び率は+23.3%となった。2015年の伸び率に比べると上昇幅が約半分程度まで縮小したものの、依然として20%台の伸びを維持している。関西に比べると伸び率はやや低いものの、全国、関東などに比べて高い伸びとなっている。



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表10. 訪日外国人数の動向（地区・県別）

(単位)	2012年 暦年		2013年 暦年		2014年 暦年		2015年 暦年		2016年 暦年	
	実数 (万人)	前年比 (%)								
愛知県	78.6	-	87.7	11.6	122.8	40.0	194.1	58.1	228.3	17.6
岐阜県	19.4	-	27.0	39.2	34.3	27.2	50.1	45.8	68.4	36.7
三重県	7.5	-	10.0	33.0	8.9	-10.8	10.4	16.2	18.0	73.0
東海3県	-	-	18.2	-	33.2	-	53.3	-	23.6	-
静岡県	27.0	-	22.4	-17.1	59.5	165.9	106.1	78.3	130.3	22.8
福井県	1.9	-	2.0	6.2	2.9	48.0	2.6	-10.9	4.3	66.7
中部	116.6	-	125.1	7.3	197.5	57.9	294.4	49.1	363.0	23.3
富山県	8.0	-	12.3	53.9	17.1	39.1	27.7	61.5	27.2	-1.6
石川県	10.3	-	16.5	60.2	20.4	24.0	37.6	84.1	48.3	28.4
長野県	25.0	-	32.8	31.2	38.2	16.5	63.9	67.0	67.7	6.0
滋賀県	4.2	-	7.2	71.0	10.1	40.4	12.9	28.0	14.8	14.7
昇龍道9県	-	-	18.2	-	46.2	-	54.0	-	19.4	-
関東	494.6	-	557.0	12.6	768.4	37.9	1,139.7	48.3	1,286.7	12.9
関西	272.8	-	345.0	26.4	479.3	38.9	789.8	64.8	1,024.5	29.7
全国	835.8	-	1,036.4	24.0	1,341.3	29.4	1,973.7	47.1	2,403.9	21.8

(注) 東海3県、昇龍道9県の前年比は各県の延べ人数の単純合計値をもとに算出。

県別に見ると、愛知県が同+17.6%の228.3万人、岐阜県が同+36.7%の68.4万人、三重県が同+73.0%の18.0万人、静岡県が同+22.8%の130.3万人、福井県が同+66.7%の4.3万人と推計される。2016年の中部圏への訪日外国人数は5県全てで増加しており、訪日外国人数の多い愛知県、静岡県、岐阜県でも堅調に増加している。また、中部圏の5県に富山県、石川県、長野県、滋賀県の4県を加えた昇龍道9県でみた場合も、足元で伸び率が鈍化しつつも、2012年から増加を続けている。

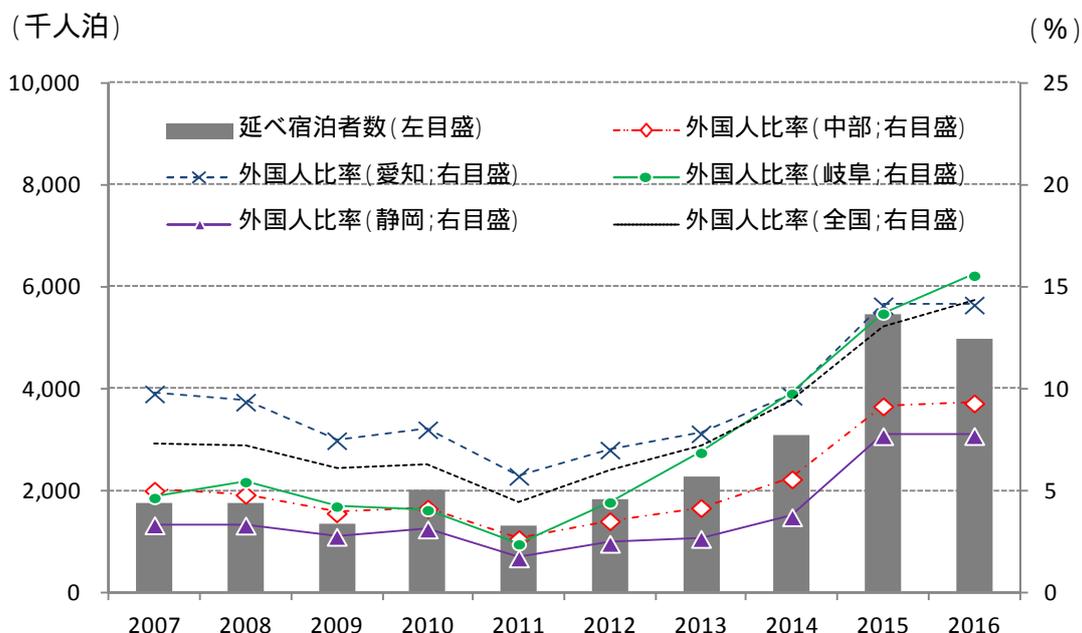
宿泊者数を見ると、中部圏における外国人の延べ宿泊者は増加基調にあり、特に2015年に急増したことがわかる。延べ宿泊者数に占める外国人の割合（外国人比率）をみると、愛知県はこれまで全国を上回って推移してきたが、足元では全国とほぼ同水準となっている。岐阜県は2012年までは全国を下回って推移してきたが、2013年には全国の水準に肩を並べ、2014年以降は全国を上回る水準で比率を高め、足元では愛知県よりも高い水準となっている。静岡県は日本人の延べ宿泊者数が多いため、相対的に外国人比率は低めで中部圏平均を下回っているが、外国人比率は上昇基調にある。

一方、訪日目的別にみた場合、観光・レジャー目的で訪れた外国人の割合が、2013年以降全国的に高まっている。従来からビジネス目的での来訪が多いと言われている愛知県を含む中部圏は2013年前半頃までは、観光・レジャー目的で訪れる外国人の割合は50%に満たなかったが、2013年第4四半期以降はその割合を次第に高めており、2014年第3四半期以降は概ね全国の水準を上回る比率で推移している。

県別に特徴をみると、岐阜県は観光・レジャー目的での来訪割合が高く、2012年時点でも69.5%と中部圏の中では群を抜いてその割合が高く、その後も比率を高め、2016年には88.3%に達している。

また、愛知県と静岡県では2013年までは50%を下回る水準であったが、2014年以降は割合を高め、2016年においては、愛知県が72.7%と全国の水準に並び、静岡県は76.7%と全国の水準を上回っている。

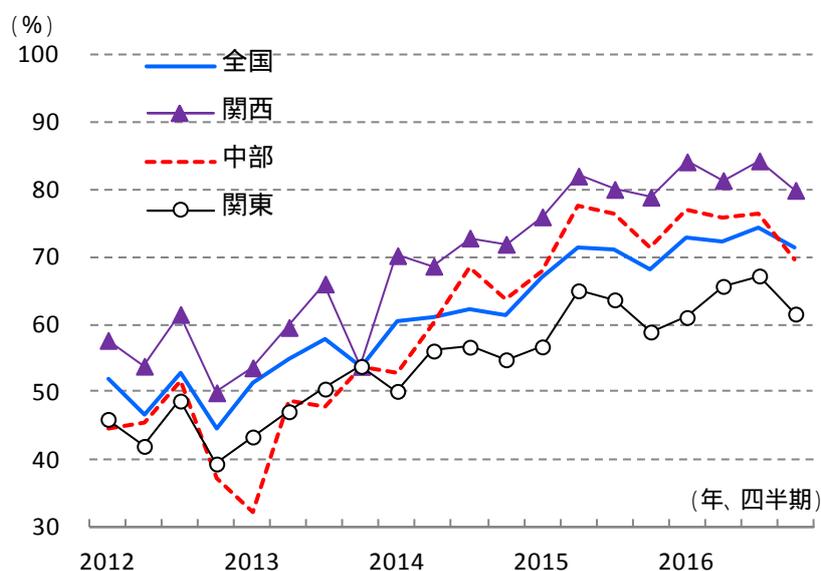
図表 11 . 延べ宿泊者数に占める外国人比率



(出所)観光庁「宿泊旅行統計」

(注)2016年は1-11月期の延べ宿泊者数・外国人比率

図表 12．観光目的で訪れる外国人数の割合



(出所)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国はJNTO公表値。

図表 13．観光目的で訪れる外国人の数・割合

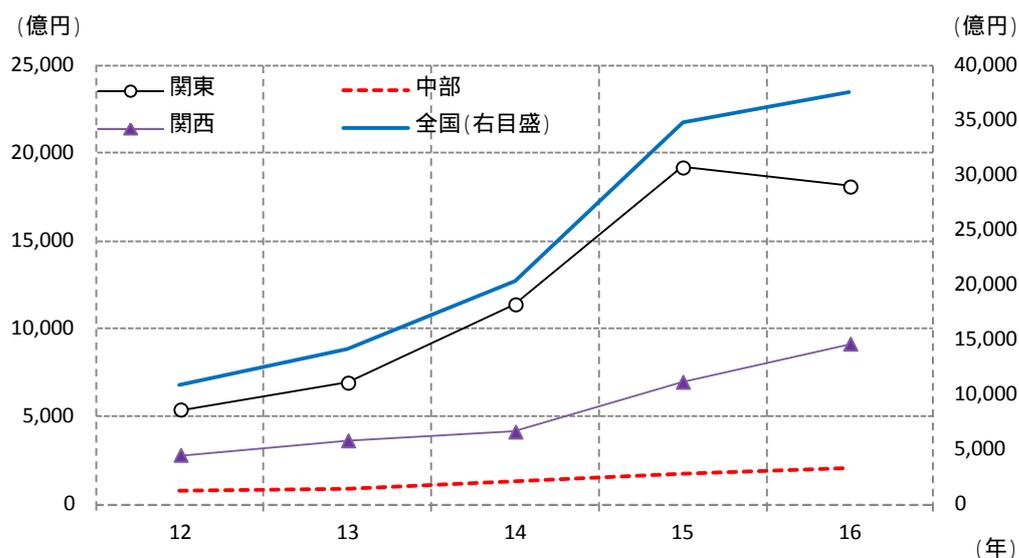
(単位)	2012年 暦年		2013年 暦年		2014年 暦年		2015年 暦年		2016年 暦年	
	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)
愛知県 〔割合〕	35.3 〔44.9%〕	-	39.1 〔44.6%〕	11.0	74.6 〔60.7%〕	90.6	141.6 〔73.0%〕	90.0	166.0 〔72.7%〕	17.2
岐阜県 〔割合〕	13.5 〔69.5%〕	-	20.8 〔77.0%〕	54.2	27.2 〔79.1%〕	30.8	43.8 〔87.4%〕	61.0	60.4 〔88.3%〕	38.2
三重県 〔割合〕	2.3 〔30.1%〕	-	3.5 〔34.5%〕	52.7	4.5 〔50.4%〕	30.1	6.1 〔58.4%〕	34.8	11.5 〔64.2%〕	90.1
静岡県 〔割合〕	11.1 〔41.0%〕	-	9.8 〔43.7%〕	-11.7	39.0 〔65.6%〕	299.4	81.9 〔77.3%〕	110.0	99.9 〔76.7%〕	22.0
福井県 〔割合〕	0.7 〔35.3%〕	-	0.7 〔37.0%〕	11.6	1.3 〔44.2%〕	76.7	1.1 〔42.7%〕	-14.1	2.7 〔63.4%〕	147.7
中部 〔割合〕	52.8 〔45.3%〕	-	57.3 〔45.8%〕	8.4	122.7 〔62.1%〕	114.2	217.8 〔74.0%〕	77.5	271.1 〔74.7%〕	24.5
関東 〔割合〕	218.3 〔44.1%〕	-	261.1 〔46.9%〕	19.6	420.1 〔54.7%〕	60.9	699.3 〔61.4%〕	66.5	821.9 〔63.9%〕	17.5
近畿 〔割合〕	152.3 〔55.8%〕	-	209.7 〔60.8%〕	37.7	340.1 〔71.0%〕	62.2	628.0 〔79.5%〕	84.6	841.8 〔82.2%〕	34.0
全国 〔構成比〕	409.8 〔49.0%〕	-	566.0 〔54.6%〕	38.1	821.5 〔61.2%〕	45.1	1,371.7 〔69.5%〕	67.0	1,747.6 〔72.7%〕	27.4

## (2) インバウンド消費額の動向

2016年の全国のインバウンド消費額の伸び率は前年比で+7.8%とプラスを維持したものの、2015年の同+71.5%に比べ、大幅に鈍化した。一方、中部圏のインバウンド消費額は同+16.5%の2,045.4億円となった。前年に比べて伸び率は鈍化したものの、依然として二桁台の伸びを維持している。全国の動きを地域別に見ると、関東は同-5.7%と減少に転じている一方、関西は同+31.1%と好調が続いており、中部圏は関西ほどではないものの、堅調な伸びを示している。

2016年に中部圏を訪問した外国人によるインバウンド消費額を県別に見ると、愛知県は前年比+16.3%の1,298.4億円、岐阜県が同+22.9%の197.7億円、三重県が同+42.5%の70.6億円、静岡県が同+9.5%の451.0億円、福井県が同+66.9%の27.8億円と推計される。中部圏では訪日外国人数の伸びに伴って、消費額も5県全てで増加している。特に前述のとおり、中部圏においても観光・レジャー目的で訪れる外国人の割合は高まっており、観光・レジャー目的で訪れる外国人の数が増加している。これに伴って、インバウンド消費額も堅調に増加している。

図表14. インバウンド消費額の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

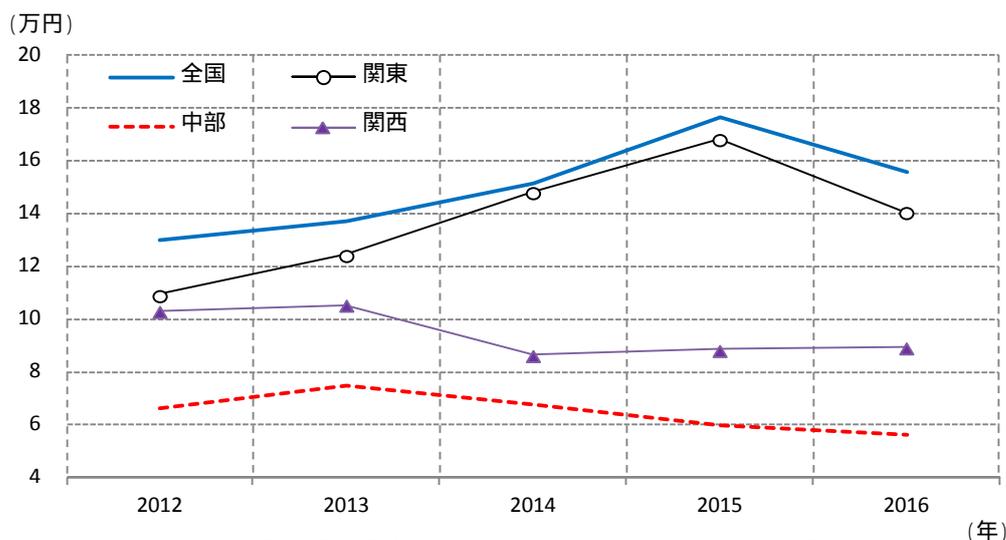
図表 15 . インバウンド消費額の動向 (地区・県別)

(単位)	2012年 暦年		2013年 暦年		2014年 暦年		2015年 暦年		2016年 暦年	
	実数 (億円)	前年比 (%)								
愛知県	531.7	-	633.6	19.1	829.5	30.9	1,116.7	34.6	1,298.4	16.3
岐阜県	68.2	-	64.4	-5.5	100.4	55.9	160.9	60.2	197.7	22.9
三重県	32.5	-	55.2	70.1	37.4	-32.2	49.6	32.6	70.6	42.5
東海3県	632.4	-	753.2	19.1	967.3	28.4	1,327.1	37.2	1,566.7	18.1
静岡県	125.7	-	169.3	34.8	333.7	97.1	411.9	23.4	451.0	9.5
福井県	10.1	-	8.8	-13.1	26.1	197.5	16.6	-36.2	27.8	66.9
中部	768.1	-	931.3	21.2	1,327.1	42.5	1,755.7	32.3	2,045.4	16.5
富山県	24.4	-	70.6	189.7	101.4	43.6	76.2	-24.9	63.4	-16.7
石川県	36.3	-	64.6	77.9	55.2	-14.5	108.7	96.9	161.2	48.3
長野県	156.0	-	221.7	42.2	184.4	-16.8	364.3	97.5	364.3	0.0
滋賀県	19.8	-	42.6	114.9	33.0	-22.5	47.9	45.2	38.7	-19.1
昇龍道9県	1,004.5	-	1,260.1	32.5	1,599.7	27.8	2,352.7	38.3	2,609.6	13.6
関東	5,393.7	-	6,922.7	28.3	11,380.4	64.4	19,171.9	68.5	18,085.3	-5.7
関西	2,811.6	-	3,637.4	29.4	4,137.7	13.8	6,971.7	68.5	9,143.0	31.1
全国	10,845.7	-	14,166.7	30.6	20,277.7	43.1	34,770.8	71.5	37,475.8	7.8

## (3) 一人あたりインバウンド消費額の動向

インバウンド消費額を訪日外国人数で割った一人あたりインバウンド消費額(消費単価)についてみると、全国及び関東では、前年比較が可能な2012年以来増加を続けていたが、2016年に初めて減少に転じた。一方、関西は2014年に前年を下回ったが、足元では小幅ながらプラスを維持し、概ね横ばい圏で推移している。このような中、中部圏は前年比-5.5%の5.6万円と2013年をピークに減少基調で推移している。

図表 16 . 一人あたりインバウンド消費額の動向



(注) インバウンド消費額を訪日外国人数で割ることによって求められているため、公表値と異なる。  
 (出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。

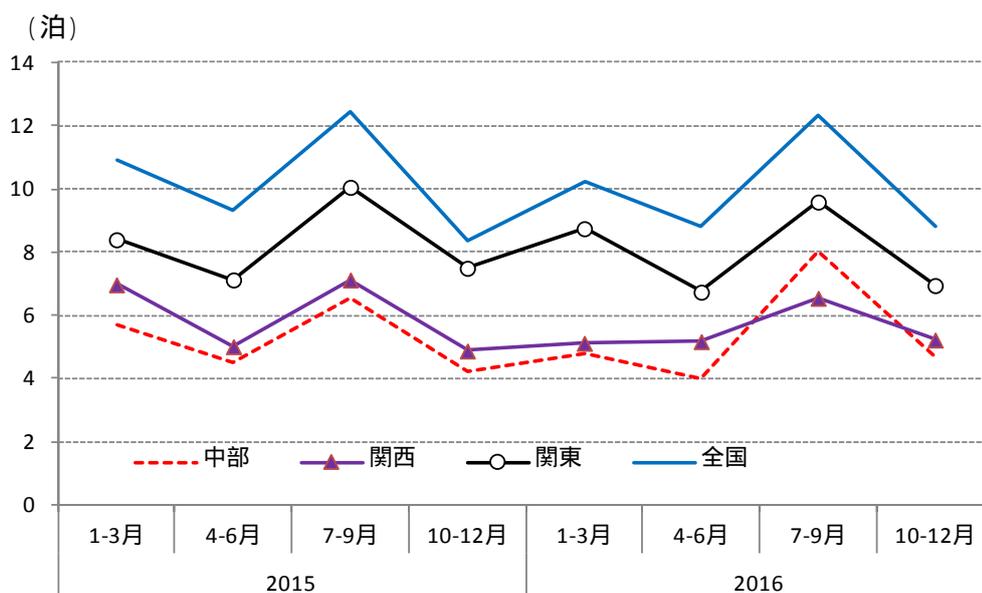
2016年に中部圏を訪問した外国人の消費単価を県別に見ると、愛知県が前年比 - 1.1%の5.7万円、岐阜県が同 - 10.1%の2.9万円、三重県が同 - 17.6%の3.9万円、静岡県が同 - 10.9%の3.5万円、福井県は同 + 0.1%の6.4万円と推計される。訪日外国人の平均泊数をみると、中部圏を訪れる外国人は関東や近畿に比べ平均泊数が短いことがうかがわれ、自ずと滞在期間中の消費額も少なくなる傾向があると考えられる。

図表 17. 一人あたりインバウンド消費額の動向（地区・県別）

(単位)	2012年 暦年		2013年 暦年		2014年 暦年		2015年 暦年		2016年 暦年	
	実数 (万円)	前年比 (%)								
愛知県	6.8	-	7.2	6.7	6.8	-6.5	5.8	-14.8	5.7	-1.1
岐阜県	3.5	-	2.4	-32.1	2.9	22.5	3.2	9.9	2.9	-10.1
三重県	4.3	-	5.5	27.8	4.2	-24.0	4.8	14.1	3.9	-17.6
東海3県		-		0.7		-3.6		-10.5		-4.5
静岡県	4.7	-	7.6	62.5	5.6	-25.9	3.9	-30.8	3.5	-10.9
福井県	5.4	-	4.5	-18.1	8.9	101.0	6.4	-28.4	6.4	0.1
中部	6.6	-	7.4	13.0	6.7	-9.7	6.0	-11.3	5.6	-5.5
富山県	3.0	-	5.7	88.3	5.9	3.2	2.8	-53.5	2.3	-15.3
石川県	3.5	-	3.9	11.0	2.7	-31.1	2.9	7.0	3.3	15.5
長野県	6.2	-	6.8	8.3	4.8	-28.6	5.7	18.3	5.4	-5.7
滋賀県	4.7	-	5.9	25.7	3.3	-44.8	3.7	13.4	2.6	-29.5
昇龍道9県		-		12.1		-12.5		-10.2		-4.8
関東	10.9	-	12.4	14.0	14.8	19.2	16.8	13.6	14.1	-16.4
関西	10.3	-	10.5	2.3	8.6	-18.1	8.8	2.2	8.9	1.1
全国	13.0	-	13.7	5.3	15.1	10.6	17.6	16.5	15.6	-11.5

(注) 東海3県、昇龍道9県の前年比はインバウンド消費額を当該地域内の各県の延べ人数の単純合計値で割った値をもとに算出。

図表 18. 訪日外国人の平均泊数



(出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

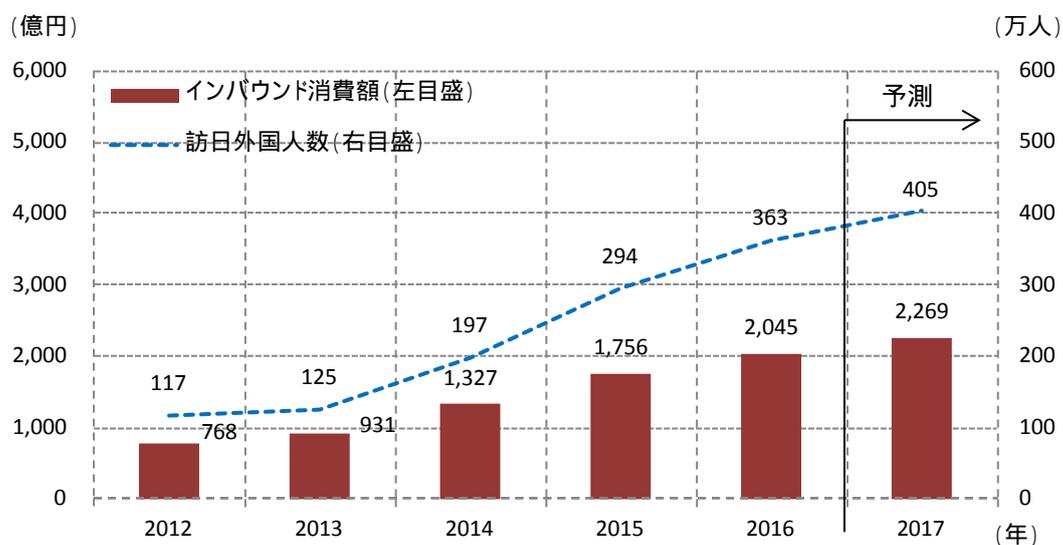
### 3. 2017年のインバウンド見通し

今後も訪日外国人は増加傾向で推移すると見込まれる。円高が下押し要因となるものの、海外景気の持ち直しなどが下支え役となり、増加テンポは鈍化しながらも、訪日外国人数は着実に増加する見通しである。中部圏の訪日外国人数の伸び率は2016年(前年比+23.3%)よりも鈍化するものの、前年比+11.6%と増加が続き、405万人が訪れると試算した。

訪日外国人の興味・関心がショッピング中心のモノ消費から体験中心のコト消費に移りつつある中、関東以外の地方にも徐々にではあるが足が伸びるようになってきており、こうした流れは今後も続くと考えられる。特に中国人による「爆買い」は円高や行郵税の見直しなどの影響もあり変容してきているが、中部圏は中国人観光客の訪問比率は高いとはいえ、関東や関西に比べ「爆買い」自体はそれほど顕著ではなかったことから、「爆買いの減速」による影響も限定的であると考えられる。2017年の消費単価<sup>4</sup>が前年実績(5.6万円)と同程度と想定すると、上記の訪日外国人数と同様のペースでインバウンド消費が増加し、2,269億円になると試算した。

2017年の中部圏のインバウンド消費は、消費単価が底堅く推移する中、訪日外国人数の増加が補う形で緩やかながら増加するであろう。

図表 19. 訪日外国人数・インバウンド消費額の見通し



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。  
(注) 2017年はMURC推計。

<sup>4</sup> パッケージツアー料金に含まれる国内収入分を含む値。

## (参考文献)

- ・ 藤田隼平 (2016) 「2016 / 2017 年インバウンド見通し」三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング調査レポート
- ・ 藤田隼平、塚田裕昭、杉本宗之 (2015) 「中部地域におけるインバウンド消費の現状と今後の見通し」三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング調査レポート

## - ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL: 03-6733-1070 E-mail: chosa-report@murc.jp